



NO. 36

2018. 3. 21

日の出町ごみ最終処分場のエコセメント化施設周辺の放射線調査 たまあじさいの会 安藤隆

エコセメント化施設は 2006 年から稼働してすでに 12 年、2011 年 3 月 11 日の福島原発事故からすでに 7 年経った。月日の流れは速い、そして時間に比例してその時々に感じた危機感も薄ってきたようと思える。2011 年当時、三多摩地区の各衛生組合から運び込まれる焼却灰中の放射性物質の総量は膨大であった。循環組合によれば、これら放射性物質はエコセメント生成の過程でほとんどが下水を通して排出され (1 日に 1 億 5450 万 Bq)、八王子水再生センターから多摩川へと流されてしまうということであった。しかし搬入排出される放射性物質の総量の収支から考え、排気ガスを通しての施設外排出は必ずあるはずだと推測された。

たまあじさいの会は 2011 年 9 月にエコセメント化施設周辺の放射線測定を開始した。青梅市側の馬引沢から二ツ塚処分場の縁辺、日の出町側の調整池周辺のホットスポットを綿密に調査し、13 のポイントを決定した。毎月第 2 土曜を測定日と決め、今まで間断なく毎月の記録が残されている。調査は午前 9 時から始まり午後 3 時ごろに終わる。昼食をはさんで 5 時間の山歩きはおじさんたちにとってはきつい。

調査から見えてくるものはエコセメント化施設の北側尾根 (青梅側) の線量は南側尾根 (日の出側) より高い、例え

ば 2017 年の年平均の空間線量で見れば北側 No6 が $0.137 \mu \text{Sv/h}$ に対して南側 No10 は $0.046 \mu \text{Sv/h}$ である。調査の過程でエコセメント工場の排気の傾向を観察していると、煙は北側に傾いていることが圧倒的に多い、本来なら北東風が卓越する秋から冬にかけてさえ煙は北に傾いていることが多い。2012 年から 8 年間続けた土壤調査では南側尾根の重金属濃度が高かったことを考えると焼却灰の飛散とエコセメント工場の汚染物質の飛散とはメカニズムが異っていることが分かる。2012 年の各ポイントの年平均と 2017 年の各ポイントの平均をグラフ化して比較してみると、全体的に線量は減衰しているが、ポイント別の傾向を見ると尾根部の減衰が大きく谷筋の減衰が少ない。持ち込まれる焼却灰中の放射性物質の減少に伴い、施設周辺の線量が下がることは当然であるが、尾根部にあった放射性物質が谷筋に降りてきているように思われる。調整池そばにある吐水口の数値は、雨樋効果が顕著なポイントで、2012 年地上 1 cm の線量は $0.400 \mu \text{Sv/h}$ それが暫時減少し 2017 年 2 月には $0.162 \mu \text{Sv/h}$ まで下がり、空間線量を下まわった。綿密にポイント周辺を調査した結果 2m 下がった地点に $0.857 \mu \text{Sv/h}$ の地点が見つかった。汚染は少しずつ移動しながら濃縮していることが分かった。

【連絡先】 〒190-0011 東京都立川市高松町 2-19-1 TEL&Fax:042-523-7297

E-mail:hinodenomori@tokyo.email.ne.jp ホームページ : <http://hinodenomori.main.jp>

